
箱庭での転生人生

炒飯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

箱庭での転生人生

【Nコード】

N3261Y

【作者名】

炒飯

【あらすじ】

初投稿ですかなりの駄文に仕上がっておりますがそれでもいい方は見てくださいます

普通な生活を送っていたジャンプ愛読者 八色^{やいろ} 実雨^{みづ}は神のミスで死んでしまうというテンプレな展開を経てめだかボックスの世界に転生させてもらえることに！

プロローグ（前書き）

初投稿ですので意味不明なところ矛盾するところなどがあるかもです
すか目をつむってやってください

ブローグ

私、八色実雨^{やいろみづ}はいたって普通の学生生活を送っていた――
今日も普通の一日な筈だった

実「んあゝよくねたっ」

はっ！今日はジャンプが発売される月曜日じゃないか！朝一番で
めだかボックスを見なければ！

ゝ少女着替え中ゝ

読者のみんな！覗いちやダメだぜ？

ん？なんでこんなこと言ってるんだろ？読者って・・・誰？

ま、いいかゝ

うん！この時間ならコンビニによっても間に合う！

実「んじゃ！いつてきまーす」

ガチャッ

だきっ！

実「うりゅゝおはよっ舞った？」

雨竜の首に抱きつきながら言う

？「ん？おお、おはよう実雨 舞ってないぞ」

実「こいつは雨竜（つりゆう かずさ）一瑳（かずさ）いわゆる性奴隷（せいやう）ってやつだ！（キリッ）」

雨竜「誰に言ってるんだ？というか誰が性奴隷だって？幼馴染だろお・さ・な・な・じ・み！」

グニグニ

実「いふあいふあい、うにゅーほっふえひつはふはあー」訳：痛い痛い、雨竜ーほっぺ引っ張るなあー」

雨「全く、で？お前にしては家が出るのが早いがなんでだ？」

実「そんなの決まってるよ！コンビニに寄ってジャンプを買っために決まってるじゃないか！」

ビシイ！と雨竜を指さしながら言う
全く！僕が月曜にジャンプを買いに
コンビニに寄るの何か毎週のことじゃないか

雨「ああ、そういえば女子にしては珍しいジャンプ愛読者だった
なお前 あと、指さすな、指」

実「という訳でいざセ○ン イレ○ンへ！」

雨「分かったから引つ張るな・・・全くなんで俺が」

そう言いつつ先に行くんだよねえー雨竜もジャンプ愛読者のくせに
ま、本人は隠してるつもりだから言わないけど（ニヤニヤ
って、ん？あれってトラックだよねかなりスピードでてるなー
あ、運転手が落ちた・・・

ん？ 運 転 手 が 落 ち た ？

ってやばい！このままだったら雨竜が轢かれる！
雨竜は！？

居た！あのばっかっ！なんでそこで竦んでるの？！

くそっ！こうなったら！

実「雨竜！頭守って！」

どんっ！

よしっ！これで雨竜だけは助かる・・・
うわぁ・・・もうトラック目の前じゃん
これは間に合いそうにないな

あ、雨竜が何か言ってる

何だろ ま、いいや、

満面の笑みで言ってやった

実「雨竜、幸せにね」

ドンッ！！

鈍い音とものすごい衝撃が来て私の意識はそこで途絶えた

「すみませんでした！！」

え？なにこれなんでこんなシヨタ「シヨタじゃありません！」に
謝られてるの！？

とかさつき私シヨタって口に出したっけ？
いや、むしろその前にこの真っ白な空間は！？

「貴方は一言も喋ってませんよ僕が心を読んだだけですから」

「心をよんだ？」

「はい！、一応神様ですからその程度は息をするようにできないと！」

「え？君が神様？」

「はい！」

へえ！神様つてほんとにいたんだ
というか神様はみんなこんな見た目幼いのかな？

「んじゃ、ここはどこ？見た感じ全部真っ白なんだけど」

「ここは神界 神の仕事場のような所です」

「神界？じゃあ、私はなんでここに？」

「うゝ貴方、自分が死んだ事は覚えてますか？」

「あゝうんトラックに轢かれて・・・ね」

「実はですね・・・それ僕のせいなんです！すみませんでした！」

そう言いながら頭を下げてるシヨタ神
何かシヨタっ子に頭下げられてるって罪悪感しか生まれてこない
んだけど

にしてもそうかそうか、私が死んだのって君のせいなのかゝって
...え？

どうして？

「実は……カクカクシカジカ……でして」

「なるほど、まるまるウマウマってことなのか、って端折るな！」

ズビシッ

「あうっ」

「とにかく！君が書類の整理してる時に私の書類を他の

本来死ぬべき人の書類と間違えて死神に渡してしまっ

て私は本来あと60年は生きれたはずだったってことでいいの？」

「はい、それで創造神様に話したら本人の許可を得たら本人が望む特典を付けて好きな世界に転生させてあげなさいって言われたんです（泣）」

そっか、神様も色々大変なんだ、にしても死神か、死神代行とか居るのかなw

って、ん？今転生させてあげなさいって……

「え？転生できるの！？」

「はい、こちらのミスですのでそのくらいはしないと神としての示しがないというか」

間違えて殺したから転生ってテンプレだな、

「じゃあじゃあ！めだかボックスの世界に転生したい！」

「めだかぼつくす？ああ！あなたの知識の中にある漫画の世界ですか」

「できる？」

「ええ、出来ますよ、というかないと僕が創造神様に怒られてしまいますから（汗）」

「じゃあその世界で！」

やったね！これで安心院さんや楔くんに会える！

あ、特典つくって言ってたけど思いつきりチートな感じでもいいのかな？

「ええ、出来ますよ！神様スペックとか人を創る以外なら大抵のことは叶えられます」

「だったら黒神めだかの全盛期の5倍の身体能力と黒神くじらの5倍の頭能と絶対記憶能力

アブノーマル マイナス
あと異常と過負荷を2つずつください！

それと、黒神めだかの『完成^{ジエンド}』と

安心院さんの『口写し《リップサービス》』が私の能力に効かないようにして！」

「え？そんな程度のことでもいいんですか？てっきり不老不死とか神様のワンランク下のスペックとか言ってくると思ったんですが」

「はい、これでいいです（不老不死とか大変そうだし）」

「そうですか…でわあなたが欲しい異常と過負荷の名前と能力を頭に思い浮かべてください」

そう言つとシヨタ神の手がいきなり光り出したと思つたら目の前で一生懸命背伸びしてるw

なにこの愛玩動物可愛い あゝ多分頭に手を当てたいんだろうなゝ大抵こういうのって頭だし

にしても一生懸命で可愛いなあゝあれ？何かしょぼーんってしながらどっか行つた

あ、ww脚立持つてきてるww

おお！シヨタ神が手を当てたら何か体が光ってる！Σ（。Д。）スゲー！！

ん？シヨタ神が何かいつてるなになに？

『それでわ第二の人生をお楽しみください』

「つてあれ？なんかねむ…た…く…なつて」

そこで私の意識は途絶えた

プロローグ（後書き）

実「うう・・・結局今週号のジャンプ見れなかった」

作「実雨さん実雨さん」

実「あうゝ作者あゝ慰めてくれるの？（泣）」

作「えゝつとですね・・・m9（＾Д＾）プギヤー」

実「・・・（＃＾ω＾）」

作『僕はわるくない』

エツ ミウサン ナンデクマガワサンノネジヲ
アツチョツヤメツ アッーーーーー！

実「こんな作者の作品ですがどうぞ生暖かい目で見てやってください（ニコッ）」

作「返り血まみれの顔で笑ってもこわいだk
ドカツ ズシュッ ズシュッ グチャッ ベチッ

実「それでは次回をお楽しみにゝ（ニコッ）」

作「あ、実雨さんの異常や過負荷は次の設定で少し明らかにします
！」

設定（前書き）

【修正】皆様から直すべきところを指摘していただき作者は今よりもっと良く考えて投稿することにしました！

なので3日に一回更新云々と書いていたのを1〜2週間に一度にさせていただきます！作者の都合で変えてしまいすみません。

ですが！投稿時間だけは決めたいと思います大体、夜の10時〜12時の間に投稿したいです。ですす

設定

八色^{やいろ}
実雨^{みつ}

身長 転生前：167cm

髪色 (銀に近い) 白

体重 「作者、死んでみるかい？」

スリーサイズ 「作者、ちょっと向こうでお話しようか」

備考 一人称や喋り方をよく変える

スペック

全盛期の黒神めだかの身体能力の5倍

全盛期の黒神くじらの5倍の頭能

絶対記憶能力

アブノーマル
異常

『置き去りにされた狂想曲』
スロウ カプリシオ

結果に関与するスキル

その物事の結果をずらすことができる

例えば花瓶が落ちて『割れる』という結果を10秒後にずらせば
落ちてから10秒後に割れる

マイナス
過負荷

『アイ・アム…
私は…』

相手の自分に対する認識を別の人間と取り変えるスキル

例えば、めだかちゃん 球磨川君

で入れ替えたとすれば、周囲の認識が逆になる。 球磨川君を

めだかちゃんと思って

めだかちゃんを球磨川君だと思って周囲は接する

設定（後書き）

実「あれ？作者あゝ『異常』と『過負荷』が一個ずつ足りなくない？」

作「ああ、残りの奴は作中で明らかに！なるんです、ですす」

実「へえゝそんなことより作者ゝ？『おはなし』がまだだったよねえゝちよつと向こうではなそうか？（ニコツ）」

ガシツ

作「むしろはなせ」

11月10日追記

皆さん！感想ありがとうございます！皆様に応援してただけで作者のやる気が格段に上がります！感謝感激雨霞です！これからも暖かい目で見えていただけると嬉しいです！

そ・し・て！この設定で出てきている異常と過負荷は知恵袋の方で募集した中で作者が勝手に選ばせていただいたものをそのまま書いたり改良（改悪）したものですん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3261y/>

箱庭での転生人生

2011年11月12日13時53分発行